

るまさきのかづら色づきにけりとよみしは、總て常葉なる草木も、冬の初めには、去年のふるはの色づき落る物なるが、ことに山の岩木などに纏へるとこはかづらの葉は南天燭に似て黒み有が、冬の初に古葉のえもいはず紅づる侍り、是ぞ山ゆく時専ら目に付てみゆれば、右の如くはよみつらん、是を思ふに此かづらをまさきづらといひて、さて神事には用ゐつらめと覺ゆる也。

〔大和本草^八蔓草〕正木ノカヅラ 其葉花實トモニマユミニニ同ジ、只其カツラ甚長シ、皮ノ中ニ絲アリマユミノ如シ、漢名シレズ、是杜仲ノ別種ナルベシ、マユミヲ正木ト云、蔓生ト木生トノカハリニテ一物ノゴトシ、和語ニ長キト云、枕詞ニ、マサキノカツラト云、古今集序ニモカケリ、此カツラ甚ナガクノブル故ナルベシ、

〔重修本草綱目啓蒙^{十五}扶芳藤〕マサキノカヅラ。ツルマサキ。ツタマサキ。和州 一名巴山

虎丹鉛

葉花實共ニマサキニ異ナラズ、樹上ニ蔓延シ、四時青翠、コレ藤本ノマサキナリ、

〔古事記^上〕天宇受賣命、手次繫天香山之天之日影而爲鬢、天之眞拆而^略下

〔古語拾遺〕令天鈿女命^略。以眞辟葛爲鬢^略。中 巧作俳優、相與歌舞、

〔日本書紀^{十七}〕七年九月、勾大兄皇子^閑。安 親聘春日皇女^略。中 口唱曰^略。中 伊慕我堤鳴、倭例爾魔柯

絶每倭我堤鳴、磨伊慕爾魔柯絶每磨左葉逗囉、多多企阿藏播梨^略。下

〔萬葉集^七雜歌〕芳野作

皇祖神之宮人冬薯蕷彌常敷爾吾反將見、

〔古今和歌集^{二十}大歌所御歌〕とりもの、歌

み山には霞ふるらしと山なるまさきのかづら。色付にけり

〔後撰和歌集^{十五}雜〕家に行平朝臣まうできたりけるに、月のおもしろかりける夜、さけなどたうべ